令和03年 第37回 特別表彰 論文番号:303

論 文	著 者	所 属	評価
【再応募】微小重力空間での定位:宇宙飛行士による当事者研究	野口 聡一	東京大学 工学系研究科先端 学際工学専攻 非常勤助教	本論文は、元宇宙飛行士が自分自身の体験に基づいて、宇宙(ISS)での滞在が人間の身体・心理にどのような影響を与えるのかについて、そのような経験を持ちえない・一般人にも分かる形で論じている。これまで宇宙について自然科学的・工学的な論文・解説は数多く公表されてきたものの、当事者が日記やISSと地球とのSNSの内容を分析するまでに至った例は見当たらない。個々のデータの分析手法そのものについては指摘すべき諸点が見られるが、提唱している仮説は興味深く、今後の検証が待たれる。民間宇宙旅行など一般人を対象とした宇宙ビジネスに関心が高まるなか、情報通信技術がますます重要な役割を担うことを示す一例として評価できる。
その他 東京大学工学系研究科先端学際工学専攻.東京大学大学院学位論文(第18602号),2020年3月			

令和03年 第37回 特別表彰 論文番号:336

論 文	著 者	所 属	評価
【審査員推薦】さようなら, 意味のない暗号化ZIP添	崎村 夏彦	NATコンサルティング合同会社 代表	本稿は、メール添付時にZIP圧縮してから暗号化して送り、次のメールでその復号鍵を送る儀式は、技術的に有害無益と断じた啓蒙的解説集である。2020年11月の平井内閣府特命担当大臣による廃止推
付メール	大泰司 章	合同会社PPAP総研 代表	が集である。2020年11月の平井内閣府特命担当大臣による廃止推 奨以降も多くの官庁や企業で使われ続けているので、病根究明は情 報セキュリティの運用に関する学師研究として最大級のテーマと考え る。しかし、本稿は、普及理由、止めない理由の解明には踏み込めて
	楠 正憲	国際大学 Glocom 客員研究員 	いない。真相解明に向けた今後の学際研究を期待する。
	上原 哲太 郎	立命館大学 情報理工学部 情 報理工学科 教授	
国内学会誌 情報処理学会,情報処理,2020年7月号別刷,2020年6月			

令和03年 第37回 入賞 論文番号:321

著 者	所 属	評 価
Mohamed A. Abdelwahab 鍛冶 静雄	九州大学 持続的共進化地域 創成拠点 学術研究員 九州大学 マス・フォア・インダ ストリ研究所 教授	本論文は、定点カメラの映像から得られる歩行者の移動軌跡をもとに 算出される「賑わい」の指標を提案し、同指標を群衆シミュレータ Vadereから生成される軌跡データおよび実享ビデオMOT16-03と MOT16-04に適用することにより、その妥当性を検証している。テレコ ム学際研究質に値する本研究によって得られた成果が、日本各地に 活気ある商店街を構築する手段として広く活用されることを期待した い。
堀 磨伊也	九州大学 エネルギー研究教 育機構 准教授	
高野 茂	九州大学 持続的共進化地域 創成拠点 准教授	
荒川 豊	カ州大学 大学院システム情報 科学研究院 教授	
谷口 倫一郎	九州大学 理事·副学長	
	Mohamed A. Abdelwahab 鍛冶 静雄 堀 磨伊也 高野 茂 豊 一	Mohamed A. Abdelwahab 九州大学 持続的共進化地域 創成拠点 学術研究員 九州大学マス・フォア・インダストリ研究所 教授

令和03年 第37回 **入賞** 論文番号:325

論 文	著者	所 属	評 価
Gaze awareness and metacognitive suggestions by a pedagogical conversational agent: an experimental investigation on interventions to support collaborative learning process and performance	林 勇吾	立命館大学総合心理学部 准教授	本論文は、対面での協同学習においてお互いの視線・会話の重要性を、2者間の視線情報のリアルタイムフィードバックと会話エージェントという支援システムを用い、オンライン学習においても重要であること、両者の相乗効果が大きいことを立証した点が高く評価できる。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)によるリモートワークが日常化してきなり、協同作業の効率化が喫緊の課題であるところ、タイムリーな研究であり学際研究として優れている。
海外学会誌 Springer, International Journal of Computer-Supported Collaborative Learning, 2020年12月			

令和03年 第37回 入賞 論文番号:322

論 文	著 者	所 属	評価
Controlled Document Authoring in a Machine Translation Age	宮田 玲	名古屋大学·大学院工学研究 科 助教	本書は、単なる機械翻訳ではなく、外国人住民を対象とする自治体での各種申請書類に焦点を絞って、より的確な文書作成の支援としての機械翻訳システムを提案しており、膨大な作業を伴う実用的な研究成果として高く評価する。今後、行政のデジタル化の中でこの種の申請手続はデジタルに移行していくことになるが、この支援システムが申請システムのデジタル化に組み込まれていくよう引き続きの努力に期待する。
書籍 Routledge2020年10月			

令和03年 第37回 奨励賞 論文番号:316

論 文	著者	所 属	評価
Dynamic Hawkes Processes for Discovering Time-	大川 真耶	NTT サービスエボリューション 研究所 研究員	本論文は、拡散過程の代表的なモデルであるHawkes過程を一般化した動的Hawkes過程を提案し、4種類のデータセットを用いてコミュニティの状態の時間的変化を推定し、近未来のイベントを高精度で予測できることを示している。既存のデータセットだけでなく、自ら収集し
evolving Communities' States behind Diffusion Processes	岩田 具治	NTT コミュニケーション科学基礎研究所 特別研究員	測できることを示している。既存のデータセットだけでなく、自ら収集したデータセットでも検証を行った点を高く評価する。本モデルは新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行の情報拡散等の分析にも利用でき、有用な結果である。
11000000	田中 佑典	NTT コミュニケーション科学基礎研究所研究員	
	戸田 浩之	NTT サービスエボリューション 研究所 主幹研究員	
	倉島 健	NTT サービスエボリューション 研究所 特別研究員	
	鹿島 久嗣	京都大学大学院 情報学研究科 知能情報学専攻教授	
KDD 2021 (27th ACM SIGKDD International Conference on Knowledge Discovery & Data Mining)2021年8月			

令和03年 第37回 奨励賞 論文番号:332

論 文	著 者	所 属	評価
Unconscious Reinforcement Learning of Hidden Brain States Supported by Confidence	Aurelio Cortese	株式会社国際電気通信基礎 技術研究所 脳情報通信総合 研究所 脳情報研究所 行動 変容研究室 主任研究員	人間は無意識の情報を利用して行動を決めているが、その無意識な情報は多次元でありコンピュータ等では極めて選択するのが難しいと考えられる。本論文は、世界で初めてMRIと情報技術により無意識の神経情報を用いて人間は学習できていることを実験的に確認した論文である。技術的に優れるとともに、人間の認知、行動のメカニズムを明らかにしていき、さらにはロボットには出来て人間には出来ない事等、今後学際的に発展が期待される論文である。
	Hakwan Lau	Professor, Department of Psychology, University of Hong Kong	
	川人 光男	株式会社国際電気通信基礎 技術研究所 脳情報通信総合 研究所 所長	
海外学会誌 Macmillan Publishers Limited, part of Springer Nature, Nature Communications, Vol.11, 4229, doi:10.1038/s41467- 020-17828-8 (2020), 2020年8月			

令和04年 第38回 特例表彰 論文番号:312

論 文	著 者	所 属	評価
特集「インフォデミック時 代のAIとサイバーセキュ	越前 功	国立情報学研究所 教授	本作は、シンセティック・メディアの負の側面の問題について、技術的 観点からの検討のみならず、社会学的観点ならびに法整備の現状を もかパーしており、「インフォデミック」を概観するにふさわしく、時直を 得た学際論文集である。学会誌の特集記事である点は審査員で評 価が分かれたところであるが、フェイクメディアをいかに克服するか、
リティ」	馬場口 登	大阪大学 教授	場が一してあり、パイングインデクリを削減するにかられた、いう直を 得た学際論文集である。学会誌の特集記事である点は審査員で評価が分かれたところであるが、フェイクメディアをいかに克服するか、 という研究成果としての価値は高く特例表彰とした。
	笹原 和俊	東京工業大学 准教授	こび、分別元成本こととの間間はお問いすが3文章とした。
	中島 悠太	大阪大学 准教授	
	Trung- Nghia Le	国立情報学研究所 特任助教	
	Huy Hong Nguyen	国立情報学研究所 特任研究員	
国内学会誌 映像情報メディ	山岸順一	国立情報学研究所 教授	
ア学会、映像情報メディア学会表	Canasai Kruengkrai	国立情報学研究所 特任助教	
2022年7月	李 良知	大阪大学 特任助教	
	王 博文	大阪大学 博士後期課程学生	

令和04年 第38回 入賞 論文番号:314

論 文	著者	所 属	評価
I Hear My Voice; Therefore I Spoke: The Sense of Agency Over	大畑 龍	東京大学大学院人文社会系 研究科心理学研究室 特任研究員	本論文では、行為を行うもの(例えば話者)に対するフィードバックの影響による行為主体感の変化を実験的に解明した。行為主体感を高められるとより積極的な会話等になるという注目すべき結果を得ている。このことは人間が制御する将来のロボット等ではなく、メタバース
Speech Is Enhanced by Hearing One's Own Voice	浅井 智:	A 国際電気通信基礎技術研究 所 (ATR) 脳情報通信総合研究所 認知機構研究所 認知 神経科学研究室 専任研究員	の時代にはいかに積極的に仮想空間で活動し仮想社会を活性化することへ繋がると考えられるユニークな研究であり、テレコム学際研究賞にふさわしいと評価する。
	今泉 修	お茶の水女子大学人間発達教 育科学研究所 助教	
	今水 寛	東京大学大学院人文社会系 研究科心理学研究室 教授	
海外学会誌 SAGE Publications Inc., Psychological Science, 2022年8月			

令和04年 第38回 入賞 論文番号:315

論 文	著 者	所 属	評価
Kiite Cafe: A Web Service for Getting Together Virtually to	佃 洸摂	国立研究開発法人産業技術 総合研究所 主任研究員	OVID-19以降、例えば友人と一緒に音声を聞きながら時間と空間を 共有することは減った。本研究で実現された"Kiite Cafe"はWeb上で 集まって、同じ曲を聴きながらコミューケーションをするものである。5 か月以上の実験的研究の後に実用にも供し、その有効性は広く決め
Listen to Music	石田 啓介	国立研究開発法人産業技術 総合研究所 テクニカルスタッフ	られ、いわば「文化」として根付いた。これは単なる学術研究で終わらず、社会実装を通して新しい文化サービスをクリエーションした実学として素晴らしい研究であり、テレコム学際研究賞にふさわしいと評価する。
	濱崎 雅弘	国立研究開発法人産業技術 総合研究所 研究グループ長	
	後藤 真孝	国立研究開発法人産業技術 総合研究所 首席研究員	
国際会議 22nd			
International Society for Music Information Retrieval Conference (ISMIR 2021), Proceedings of the 22nd International Society for Music Information Retrieval			
Conference (ISMIR 2021), 2021年11月			

令和04年 第38回 入賞 論文番号:316

論 文	著 者	所 属	評 価
研究利用可能な小論文 データに基づく参照文書 を利用した小論文採点手	竹内 孔一	岡山大学学術研究院 自然科 学学域 准教授	本論文は、小論文の採点という教育現場において大変重要かつ負担の大きい課題について、現実的な自動採点手法を実装している点が高く評価できる。特に人文学、経済、科学をデーマに関して4800件の答案データを構築し公開している。点、それらを用いた評価実験の結びを
法の開発	大野 雅幸	住友電工情報システム株式会 社 テクニカル・コンサルタント	の人とい味適に しいて、状実的な日勤が採出すばを美装している点が 高く評価できる。特に人文学、経済、科学をデーマに関して4.800件の 答案データを構築し公開している点。それらを用いた評価実験の結 果、手法の面でも先行研究を上回る高い性能を実現していることが 評価できる。この分野の今後の発展の道を切り開いた作品であると 言えることから、テレコム学際研究賞にふさわしいと評価する。
	泉仁 宏太	株式会社NTTデータ MSE 社員	
	田口 雅弘	岡山大学学術研究院 社会文 化科学学域 教授	
	稲田 佳彦	岡山大学学術研究院 教育学 域 教授	
	飯塚 誠也	岡山大学全学教育·学生支援 機構 教授	
国内学会誌 情報処理学会,情報処理学会,情報処理学会論文誌.	阿保 達彦	岡山大学学術研究院 自然科学学域 教授	
云, 1月報処理子云論文誌, 2021年9月	上田 均	岡山大学学術研究院 自然科 学学域 教授	

令和04年 第38回 奨励賞 論文番号:310

論 文	著	者	所 属	評 価
Confidence modulates the decodability of scene prediction during	片山		京都大学 大学院情報学研究科 博士後期課程1年	本論文は、3次元空間における迷路探索課題をバーチャルリアリティゲームとして実装し、迷路内を移動中に脳内に構築されるシーン予測とその主観的確信度の両方が脳活動パターンから解読可能であることを示している。予測の確信度が高いほど、その予測を表現する脳活動がより明瞭になるという知見を見出した点を高く評価する。将来
partially-observable maze exploration in humans	吉田 和	和子	オックスフォード大学 Nuffield 医療神経科学部 博士研究員	的にはブレイン・マシン・インターフェースを用いた情報通信技術への 応用が期待される。
numans	石井(信	京都大学 大学院情報学研究科	
			教授 	
海外学会誌 Nature Research, Communications Biology, 2022年4月				

令和04年 第38回 奨励賞 論文番号:303

論 文	著 者	所 属	評価
AI技術と集団的労働法上の課題 一集団的利益調整の位置付けと不当労働行為制度の解釈に着目して一	岡村 優希	同志社大学 国際取引・国際法 務研究センター 研究員	本論文は、経営者による雇用管理がAIによる雇用管理によって代替される場合の労働法との位置づけに関し、個別的労働法ならびに集団的労働法の双方において、労働者性の成否(非雇用化)、不当労働行為の成否(不利益取扱いの意思の存否)などについて、機械学習と深層学習に分け、位置づけている論文である。人的組織が情報システムを介した場合の法的問題を鋭く解析しており、学際論文としてのオリジナリティがある。
国内学会誌 労働開発研究会,季刊労働法275号, 2021年12月			

令和05年 第39回 特例表彰 論文番号:322

論 文	著 者	所 属	評 価
メタバースの教科書 原理・基礎技術から産業応用まで.	雨宮 智浩	東京大学大学院情報理工学 研究科 准教授	本書は、メタバースについて技術と理論を整理した専門書であり、概念や定義、歴史から未来予想図まで、人文学・社会科学分野と技術分野の両分野の視点から幅広く解説している。タイトルにあるようにあくまでも「教科書」であって研究論文ではないが、メタバースの分野における研究の発展を促す良書といえ、その価値は高いため特例表彰とした。
書籍 株式会社オーム社 2023年4月			

令和05年 第39回 入賞 論文番号:303

論 文	著 者	所 属	評価
Privacy-Preserving Collaborative Data Collection and Analysis With Many Missing Values	清 雄一 J. Andrew Onesimu 奥村 拓史 大須賀 昭	電気通信大学 大学院情報理 工学研究科 情報学専攻 教授 Karunya Institute of Technology and Sciences Assistant Professor 株式会社三菱総合研究所 ビジネス・コンサルティング部門 イノベーション・サービス開発 本部 特命リーダー 電気通信大学 大学院情報理 工学研究科 情報学専攻 教授	本論文は、欠損値を考慮した上でプライバシーを保護するデータ収集・解析基盤を提案し、既存手法と同一のプライバシー保護を実現しながら、統計データの精度を向上できることを医療系の公開データを用いて明らかにしている。提案手法は医療データ等の解析に不可欠な手法であり、その社会的意義も大きく、更なる研究の発展と今後の社会実装が期待される。
海外学会誌 Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE), IEEE Transactions on Dependable and Secure Computing, 2023年5月			

令和05年 第39回 入賞 論文番号:315

論 文	著者	所 属	評価
High-resolution image reconstruction with latent diffusion models from human brain activity	高木 優	大阪大学大学院生命機能研究科/国立研究開発法人情報通信研究機構助教/特別研究員	本論文は、被験者への提示画像と機能的磁気共鳴データを用い、画像生成AIであるStable Diffusion (SD)を組み合わせることにより、元画像と所述い。高特度に面像を再構成できることを示している。同時にSDの内部表現と脳活動に構造的な対応関係があることも示し、深層学習のメカニズム解明に一石を投じている。専門外にも読みやすく構成されているという意味でも、テレコム学際研究賞にふさわしい研究
	西本 伸志	大阪大学大学院生命機能研究科/国立研究開発法人情報通信研究機構 教授/特別招へい研究員	である。
国際会議 The IEEE / CVF Computer Vision and Pattern Recognition Conference (CVPR)2023年6 月			

令和05年 第39回 入賞 論文番号:305

論 文	著 者	所 属	評 価
D. Satoh and T. Mochida, Changes in calling parties' behavior caused by settings for indirect control of call duration under disaster congestion, IEICE Transactions, E105-A, No. 9, Article: 2021EAP1094 (2022.9) 1358-1371. https://doi.org/10.1587/t ransfu	佐藤 大輔 持田 岳美	NTTネットワークサービスシステム研究所主任研究員 NTTコミュニケーション科学基礎研究所主任研究員	本論文は、交換機の交換能力の10倍強の発呼があっても発呼可能な番号割り当てと人の行動変容により、一律の発信規制を採らずに輻輳回避するというテレコム学際研究賞にふさわしい提案である。大きな投資を避けつつ実効性があり、運用現場そして利用者に歓迎されるであろう。被災地の受信交換機の輻輳回避も大きな課題であるため、SIPプロトコルのダイナミズムを考慮した継続研究を望みたい。
国内学会誌 電子情報通信 学会, IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences, 2022年9月			

令和05年 第39回 奨励賞 論文番号:318

論 文	著者	所 属	評 価
It's my turn: empirical evidence of upstream indirect reciprocity in society through a quasi- experimental approach	大林 真也 稲葉 美里 大平 哲史	青山学院大学 社会情報学部 准教授 近畿大学 経済学部 講師 青山学院大学 附置情報メ ディアセンター 助教	ある災害時に被災者支援を受けた経験のある者が、別の災害時に 被災者を支援するボランティアとして活動し、助け合いの連鎖関係 (正の因果関係)が見られるという社会的関係を、現実のスマフェ データを用いて明らかにしており、自然言語処理・因果推論をも利用 した計算社会科学的な手法と情報通信技術を用いた例として、有意 義な学際的研究である。
海外学会誌 Springer Nature Group, Journal of Computational Social Science, 2023年9月	清成 透子	青山学院大学 社会情報学部 教授	

令和05年 第39回 奨励賞 論文番号:312

論 文	著 者	所 属	評 価
Identifying influential brokers on social media from social network structure	津川 翔 渡部 康平	筑波大学 助教 長岡技術科学大学 准教授	ソーシャルメディア上のインフルエンサーを抽出するという着眼点は 興味深く、社会的にも経済的にも重要な研究論文である。本論文は 他のユーザが発信した情報を多くのユーザに拡散するブローカーを 機械学習技術を用いて特定する手法を提案した点、またにWSMとい うトップカンファレンスで採択されている点も高く評価したい。今後の 更なる展開を期待したい論文である。
国際会議 International AAAI Conference on Web and Social Media, Proceedings of the 17th International AAAI Conference on Web and Social Media (ICWSM 2023), 2023年6月			

令和06年 第40回 特例表彰 論文番号:119

論 文	著 者	所 属	評価
AIの世界へようこそ: 未来 を変えるあなたへ	美馬 のゆり	公立はこだて未来大学システ ム情報科学部 教授	本書は、小学校高学年から中学までの生徒向けに執筆されたAIについての啓蒙書である。これからAIとともに生きて行く生徒らにとって、AIの歴史や技術についての基礎訓養を身につけ、AIをこれからどのように活用し、どのような社会をつくっていくかを考えることは重要である。簡潔でうかりやすい解説は小学校や中学校でのAIリテラシー教育に役立つことが期待され、社会的意義が大きいことから特例表彰とした。
書籍 Gakken 2024年8月			

令和06年 第40回 特例表彰 論文番号:205

論 文	著 者	所 属	評価
拡散モデル - データ生成 技術の数理	岡野原 大輔	株式会社Preferred Networks 代表取締役最高研究責任者	一般的にこのような最先端技術は洋書で出版され、研究者は英語で理解するか翻訳本を苦労して利用するが、本書は日本語で書かれた、わかりやすい素晴らしい教科書的な本である。著者は日本発のALユニコーン企業の創始者であると同時に、啓もう活動にも多くの努力を払い、日本の多くの技術者を育ててさている。ちなみに、初心者は2024年末に出版された「生成AIの仕組み」(岩波書店)から読むのが理解が早い。啓もう活動を含め、著者の活動を特例表彰とした。
書籍 岩波書店2023年2月			

令和06年 第40回 入賞 論文番号:313

論 文	著者	所 属	評価
Decision uncertainty as a context for motor memory	小笠 希将	情報通信研究機構 未来ICT 研究所 脳情報通信融合研究 センター 研究員	これまで独立と考えられてきた意思決定と運動のプロセスが脳内で 連関していること、また脳は確実・不確実な状況を別々のものとして 運動と結びつけ学習しているという脳の新たな情報処理様式を明ら かにしている。認知科学、行動科学、スポーツ科学などの学際分野に 新たな視点を提供すると共に、確実・不確実を組み込んだ新たな学 習法の開発等に貢献することが明冷され、テレコム学際研究賞にふ
	横井 惇	情報通信研究機構 未来ICT 研究所 脳情報通信融合研究 センター 研究員	省法の開発寺に貝献することが期待され、アレコム子除研究員にか さわしい研究である。
	岡澤 剛起	Institute of Neuroscience, Chinese Academy of Sciences チームリーダー	
	西垣 守道	株式会社 本田技術研究所 先 進技術研究所 チーフエンジニア	
	平島 雅也	情報通信研究機構 未来ICT 研究所 脳情報通信融合研究 センター 研究マネージャー	
	羽倉 信宏	情報通信研究機構 未来ICT 研究所 脳情報通信融合研究 センター 主任研究員	
海外学会誌 Springer Nature, Nature Human Behaviour, 2024年6月			

令和06年 第40回 入賞 論文番号:324

日彬	国立研究即及法士桂起语后	
	国立研究開発法人情報通信 研究機構 サイバーセキュリ ティ研究所 サイバーセキュリ ティ研究室 主任研究員	日本国内のISPとユーザを対象にIoT機器に関するセキュリティ意識 を大規模に調査した報告である。ステーウホルダーへの社会的評価 の重要性、政府の役割等、実効性のあるインセンティブ設計の必要 性も述べている。日本のセキュリティ運用者の意識を高める行動経済 学的アプローチの基礎データとして価値が高く、テレコム学際研究賞 にふさわしいと高く評価する。
,	ASML Senior Security Specialist	
	University College London Associate Professor	
	University College London Lecturer	
引 貴弘	国立研究開発法人情報通信 研究機構 サイバーセキュリ ティ研究所 サイバーセキュリ ティ研究室 副室長	
尾 康二	国立研究開発法人情報通信 研究機構 サイバーセキュリ ティ研究所 主管研究員	
上 大介	国立研究開発法人情報通信 研究機構 サイバーセキュリティ研究所 サイバーセキュリティ研究室 室長	
	sy mbatruan stan ulfield olf cker 貴弘 尾 東二	主任研究員 ASML Senior Security Specialist Stan University College London Associate Professor University College London Lecturer 間 貴弘 国立研究開発法人情報通信 研究機構サイバーセキュリティ研究室 副室長 国立研究開発法人情報通信 研究機構サイバーセキュリティ研究所 主管研究機構サイバーセキュリティ研究所 主管研究所 対イバーセキュリティ研究所 ティ研究所 ティ研究所 対イバーセキュリティ研究所 サイバーセキュリティ研究所 対イバーセキュリティ研究所 オーイバーセキュリティ研究所 ティ研究所 サイバーセキュリティ研究所 ティ研究所 ティ研究所 アティ研究所 アティ研究所 アティ研究所 アティ研究所 アティ研究所 アティ研究所 アティ研究所 アティ研究所 アティ研究の定

令和06年 第40回 入賞 論文番号:330

論 文	著 者	所 属	評価
VisPhoto: Photography for People with Visual Impairments via Post- Production of Omnidirectional Camera Imaging	平林 直樹 岩村 雅一 程 征 南谷 和範 黄瀬 浩一	ヤフー株式会社 なし 大阪公立大学 大学院情報学研究科基幹情報学専攻 准教授 住友電装株式会社 なし 大学入試センター 研究開発部 教授 大阪公立大学 大学院情報学 研究科基幹情報学専攻	全盲でも一人で写真撮影できるVisPhotoの提案は、ダイバーシティ&インクルージョンの社会での開発者のやさしさを感じさせる。新奇な技術を使用しているわけではないが、社会的価値は申し分なく、ASSETS2023でBest Paper Awardを受賞している。ぜひ商品化して、多くの視覚障害者にInstagramを楽しんでもらいたい。そのようなことから、テレコム学際研究賞にふさわしいと高く評価する。
国際会議 The 25th International ACM SIGACCESS Conference on Computers and Accessibility (ASSETS 2023), Proceedings of the 25th International ACM SIGACCESS Conference on Computers and Accessibility (ASSETS 2023),			

令和06年 第40回 奨励賞 論文番号:305

論 文	著者	所 属	評価
Lyric App Framework: A Web-based Framework for Developing Interactive Lyric-driven Musical Applications	加藤 淳 後藤 真孝	国立研究開発法人産業技術 総合研究所 主任研究員 国立研究開発法人産業技術 総合研究所 首席研究員	本作品は、ミュージックビデオを対象とした歌詞表現のためのリリックアプリに関する論文である。提唱しているリリックアプリを公開し、デオルを用し、アログラミングの将来のための実装的知見を得るとともに、創作ジャンルの垣根を超えた創造性支援を提供したという点を高く評価し、テレコム学際研究賞にふさわしいとした。
国際会議 The 2023 ACM CHI Conference on Human Factors in Computing Systems, CHI '23: Proceedings of the 2023 CHI Conference on Human Factors in Computing Systems, 2023年4月			

令和06年 第40回 奨励賞 論文番号:310

論 文	著者	所 属	評価
Analytically Tractable Models for Decision Making under Present Bias	赤木 康紀	日本電信電話株式会社 人間情報研究所研究員	人間の現在バイアスによる行動を予測分析し最適な介入を導出するという行動経済学の分野の研究である。提案した閉じた形式の数理モデルは、目標設定や報酬スケジュールの最適化を現実的な時間で解け、学術的価値は大変高くい。よって、テレコム学際研究賞にふさわしいと評価する。今後は情報通信のセキュリティ運用等の現実問題に適用して、社会的価値のある成果を期待する。
	丸茂 直貴	東京大学 大学院情報理工学 系研究科 数理情報学専攻 特任助教	
	倉島 健	日本電信電話株式会社 人間情報研究所特別研究員	
国際会議 The 38th AAAI Conference on Artificial Intelligence (AAAI-24), Proceedings of the 38th AAAI Conference on Artificial Intelligence, 2024年2月			

令和06年 第40回 奨励賞 論文番号:302

論 文	著者	所 属	評価
AI採点システムが変える 大学入試	石岡 恒憲	独立行政法人 大学入試セン ター 研究開発部 部長/教授	本作品は、AIによる自動採点の現状、海外の事例、国内の取り組み状況、自動採点を導入するための課題などを俯瞰的にまとめた解説論文である。今後AI採点導入を具体的に検討するにあたっては、解答の入力について、手書にするか、キーボードやタブレットを用いるかによっても課題はさまざまだという。導入にあたり山積する課題についてのさらなる研究の積み重ねを期待して、テレコム学際研究賞の奨励賞とした。
国内学会誌 一般社団法人情報処理学会,情報処理/小特集[AI採点システム],2023年5月			